



## 展開図

- 1 展開図の作成の流れ \_\_\_\_\_ 1
- 2 視点設定 \_\_\_\_\_ 1
- 3 図枠の配置と自動作成 \_\_\_\_\_ 2

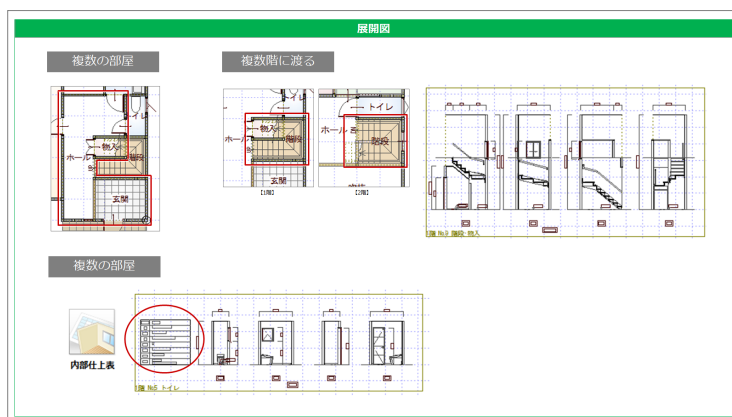
# 1. 展開図の作成の流れ

展開図は、平面図、天井伏図のデータを基に、対象の部屋を設定して作成します。

基本的な作成方法は、部屋ごとに視点を設定してから図枠を配置し、その図枠に対して自動作成します。



玄関とホールなど複数の部屋をまとめた展開図を作成したり、吹抜けのように複数階に渡る展開図の作成も可能です。



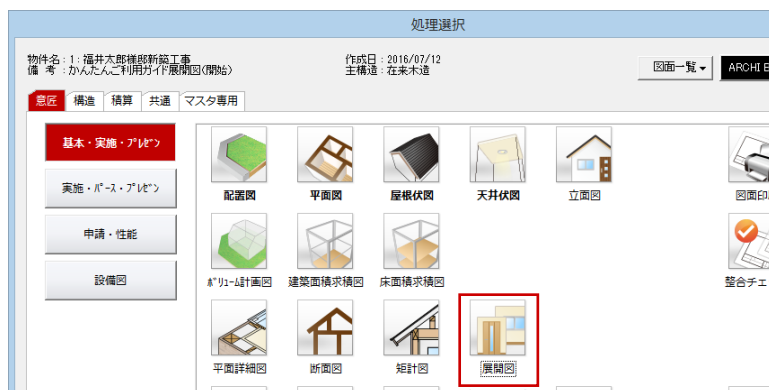
また、内部仕上表で仕上データを作成していると、仕上表も配置することができます。

ここでは、基本的な展開図の作成方法について解説していきます。  
なお、平面図、天井伏図のデータは作成済みとします。

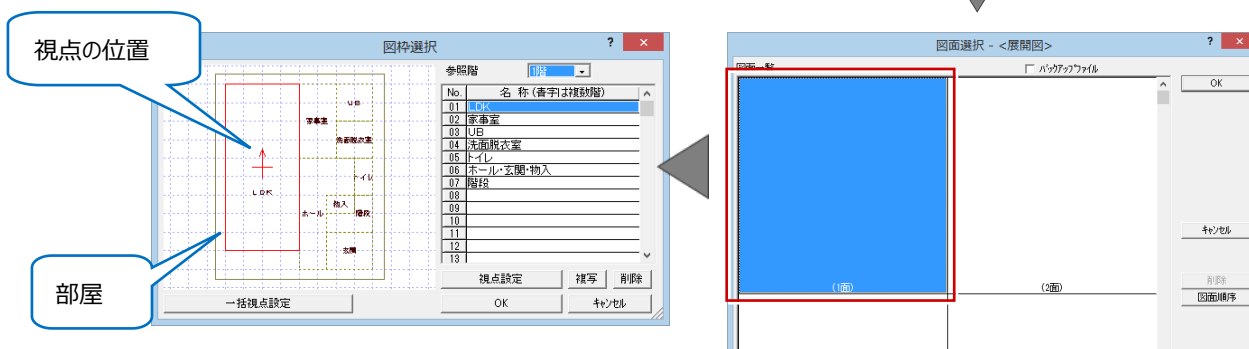
# 2. 視点設定

では、展開図を開いて作図しましょう。

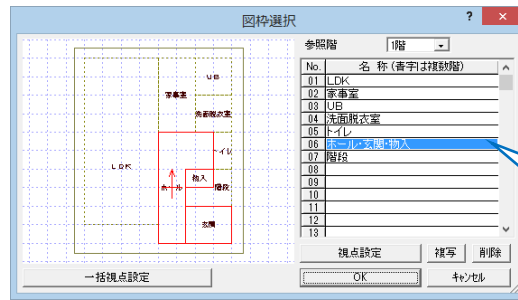
1 面を選んで開くと、「図枠選択」ダイアログが表示されます。



部屋と視点の位置が自動的に設定されます。

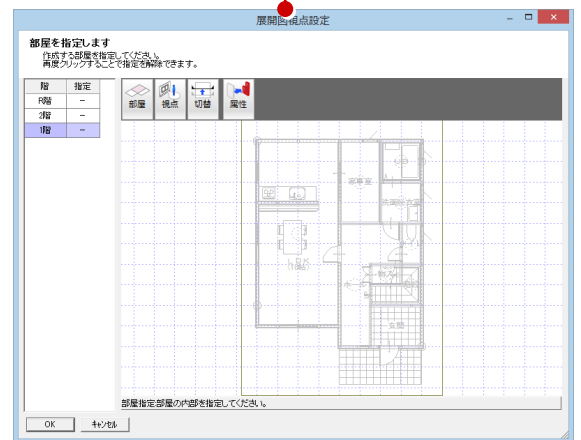
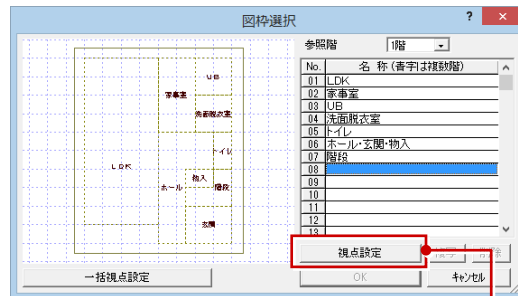


部屋や建具、開口などの入力から、条件にあてはまるときは、複数の部屋をまとめて設定します。



複数の部屋を  
まとめて設定

新たに追加、変更したい場合は、「視点設定」をクリックすると、「展開図視点設定」ウィンドウが開くので、手動で視点を設定することもできます。



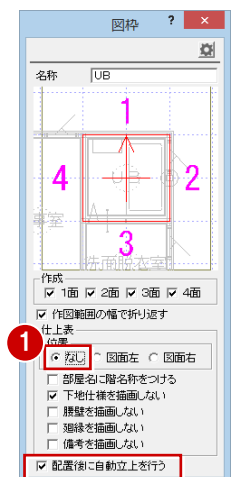
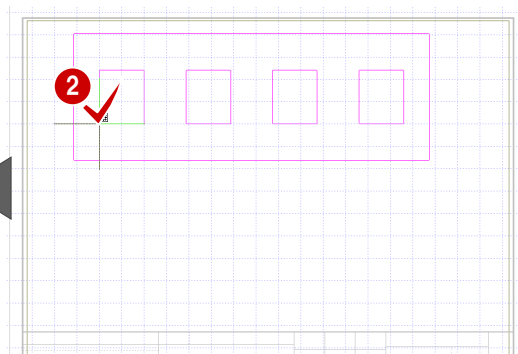
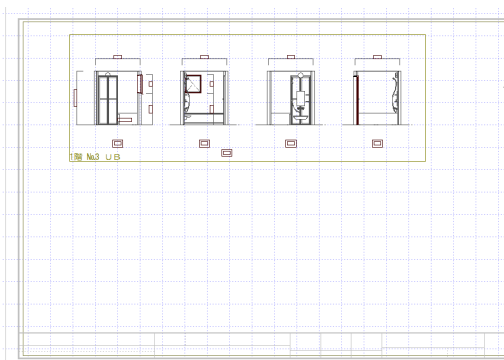
### 3. 図枠の配置と自動作成

作成したい部屋名を選択して、図枠を配置します。

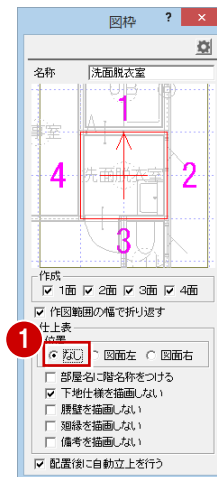
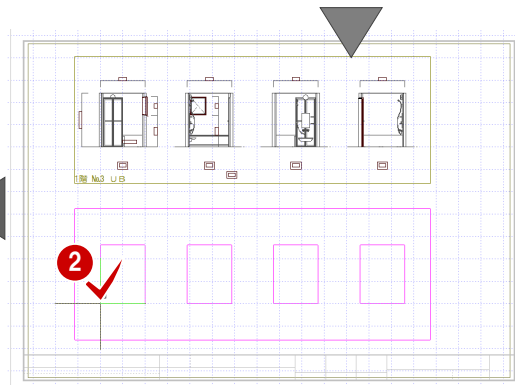
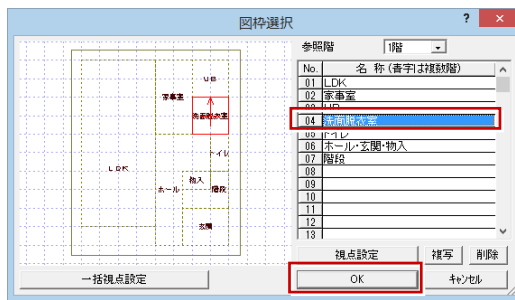


ここでは、内部仕上表を作成していないため、「図枠」ダイアログの仕上表の位置を「なし」にして、配置位置をクリックします。

「配置後に自動立上を行う」が ON のときは、枠を配置すると展開図が自動作成されます。



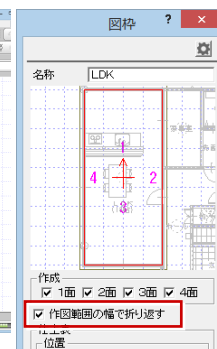
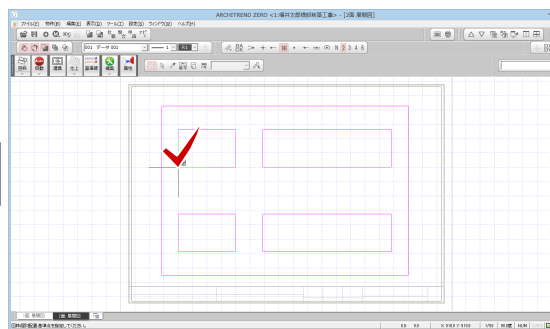
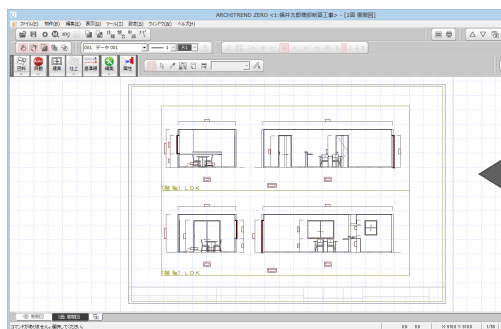
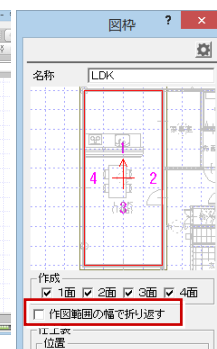
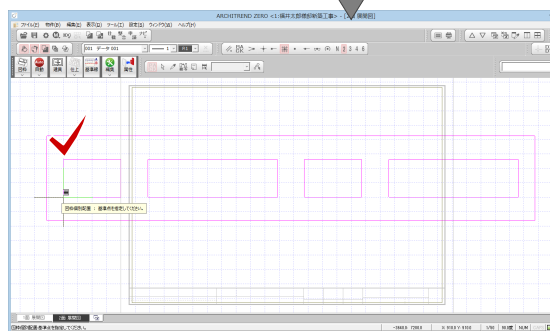
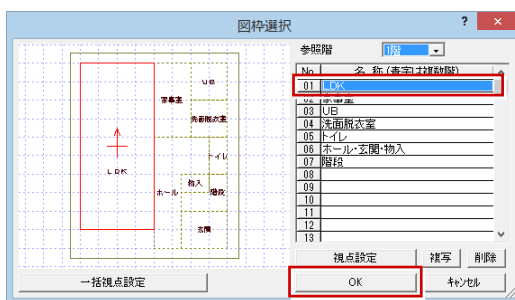
「図枠選択」ダイアログを閉じて図面を確認します。



新しい図面を開くときは、「上図面へ」をクリックし、部屋名を選択して、展開図を作成していきます。



4つの面の図枠が長く作図範囲から飛び出す場合、「作図範囲の幅で折り返す」をONにすると、図枠を折り返して配置します。



以上で、展開図の説明を終わります。

より詳細な操作内容を確認する場合には、教材動画のご利用をご検討ください。